



編集雑記

既刊案内 (特集・主要記事)

[5月号]

◎[特別座談会]命の水を守る管工事業界 能登半島地震で支援東管協組が復旧活動…月刊コア編集部 ◎[緊急連載]能登半島地震 被災状況と復興への方向(4)UF膜を用いた非常災害用浄水装置による支援 水道機工(株)取締役水処理事業本部長 鷹栖茂幸に聞く…水道ネットワーク通信・有村源介 ◎[シリーズ次代を担う衛生・環境工学者 NO.90] 神奈川大学 化学生命学部 応用化学科 環境鑑識学研究室 准教授 中田典秀氏を訪ねて 生理活性物質による環境モニタリングと流域評価…水道ネットワーク通信・有村源介 ◎「流域治水(りゅういきちすい)」ロゴマークを決定しました～流域のみんなが水害対策を取り組むきっかけに～…国土交通省 ◎令和4年度における浄化槽の設置状況等について…環境省 ◎河川上空を活用したドローン物流の考え方を公表します～「ドローン物流における河川上空の活用円滑化に向けた基本的考え方」…国土交通省 ◎令和4年度オゾン層等の監視結果に関する年次報告書について…環境省 ◎令和6年能登半島地震による災害に関して被災中小企業・小規模事業者支援措置を行います…経済産業省 ◎公共交通機関におけるバリアフリー化の状況を公表～令和4年度 移動等円滑化に関する実績の集計結果概要…国土交通省 ◎令和6年度「全国安全週間」を7月に実施～令和6年度のスローガンを決定～…厚生労働省 ◎令和5年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」入賞作品決定～国土交通大臣賞4点、国土交通事務次官賞60点…国土交通省 ◎東京都水道局 環境報告書2023を発行！…東京都水道局 ◎令和4年 全国屋上・壁面緑化施工実績の調査結果について…国土交通省 ◎「明日への道標」共感による経済活動を～真実の آدم・スミス～(株)日本設備工業新聞社 代表取締役社長 高倉克也 ◎「東京見て歩き」(124)開業した麻布台ヒルズ…(一社)スマート水道推進協会会長・(株)日本設備工業新聞社顧問 坂本弘道 ◎「特別連載」平成を偲ぶパロディ狂歌集(61)～平成一人百首 食1(全7首)…弁護士 野平大魚 ◎建築業工統計(2024年2月)…国土交通省 ◎エッセイ西村修一、新田純子

[6月号]

◎[特別インタビュー] 官民連携を見据えた産業界の動向～起業5年目に入った(株)アンドオン及び新規・(株)エンドイン社長 池田和隆氏に聞く～流動化と二極化が進み、変化に対応出来る企業が生き残る…水道ネットワーク通信・有村源介 ◎[シリーズ次代を担う衛生・環境工学者 NO.91] 上下水道経営コンサルタント藤木一和氏を訪ねて 技術と経営を橋渡し地域の水インフラ維持に貢献…水道ネットワーク通信・有村源介 ◎環境省新庁舎のZEB Ready認証取得について…環境省 ◎水道事業における耐震化の状況(令和4年度)…厚生労働省 ◎令和4年度(2022年度)エネルギー需給実績を取りまとめました(確報)…経済産業省 ◎2022年度の我が国の温室効果ガス排出・吸収量について…環境省 ◎我が国の沿岸域に生息する海洋植物による二酸化炭素の吸収量(約35万トン)が国連に報告されました～海藻藻場による二酸化炭素の吸収量の報告は世界初…国土交通省 ◎流域マネジメントの更なる展開のために～「流域マネジメントの手引き 改定版」を公表しました！～内閣官房 ◎九都県市「エコなライフスタイルの実践・行動」キャンペーンを実施します…東京都環境局 ◎「トビックス」上下水道一体化の災害対応～ 国交省検討委で地震対策議論…月刊コア編集部 ◎「明日への道標」違いを認め受け入れる～新戸部稲造の武士道～(株)日本設備工業新聞社 代表取締役社長 高倉克也 ◎「東京見て歩き」(125)隅田川界隈の両国…(一社)スマート水道推進協会会長・(株)日本設備工業新聞社顧問 坂本弘道 ◎「特別連載」平成を偲ぶパロディ狂歌集(62)～平成一人百首 食2(全7首)…弁護士 野平大魚 ◎建築業工統計(2024年3月)…国土交通省 ◎エッセイ西村修一、新田純子

機織りが上手な織姫と実直な牛飼いの彦星は仲睦まじい夫婦になった。だがふたりは遊び呆けて働かなくなってしまう。織姫の父である天の神は烈しく怒り、ふたりを天の川の両端に引き離す。嘆き悲しむ娘を見かねた天の神は一年に一度だけ会うことを許した。ふたりは懸命に働いて天の川を渡る日を待つ。七月七日、七夕の特別な夜を。

東の空に帯状に星が集まっている天の川は夏の大三角形といわれる琴座のベガ=織姫、鷲座のアルタイル=彦星、白鳥座のデネブを覆うように流れている。七夕の語源は中国の故事に由来し、糸を組みあわせて布をつくる^{たなばたつめ}棚機女を七月七日の夕刻にあてはめた。機織りを棚に供えて秋の豊作を祈ったり、災厄を祓ったりしたという。

今年の七夕は日曜日で夏と冬に開かれる恒例の音楽祭にわたしも参加する。七夕と同様に年に二回だけ会う音楽仲間も少なくない。短冊に願いを込めて笹の葉に飾る風習は織姫にあやかり手芸、書道、詩歌などの芸事が上達するように祈ったのが始まりだ。成長の早い竹は生命力の象徴であり、笹の葉は邪気を祓う魔除けとして使われていた。

短冊の色は青・赤・黄・白・黒の五色を基本としている。中国の陰陽五行説に基づいて青は仁、赤は礼、黄は信、白は義、黒は智を意味している。子供たちの願いごとは竹のように健やかに育ってほしいという親の想いでもあるだろう。未来に生きる子供たちが夢を抱けるような世界にすることも大人たちの務めだとわたしは思う。晴れた日の夜は織姫と彦星の一等星が輝いて見える。(高倉)

給排水・衛生・環境設備の総合誌

月刊「コア」第416号

令和6年7月10日発行 定価1,000円(税別)

発行編集人 高倉克也

印刷所 (株)日本設備工業新聞社出版事業部

発行所 〒150-0031東京都渋谷区桜丘町10-13

(野元第1ビル)(株)日本設備工業新聞社

TEL (03) 3496-4774(代)

FAX (03) 3464-1884